

第 30 回仙台市福祉整備審議会議事録

1 日 時 令和 2 年 11 月 19 日（木） 15：00～16：30

2 場 所 ショーケー本館ビル 3 階会議室 CD

3 出席者

[委員] 11 名（委員定数 17 名）

安孫子雅浩委員・阿部勇委員・石井敏委員・市場芳男委員・今野広元委員・齋木しゅう子委員・
佐藤健委員・佐藤富美子委員・菅井明仁委員・久道悦子委員・平間弘委員

※欠席委員：秋元俊通委員・菊地徹委員・佐藤万里子委員・高橋秀信委員・中尾吉宏委員・
松本和美委員

[事務局]

健康福祉局地域福祉部長、地域福祉部社会課長、都市整備局建築宅地部建築指導課長、
建設局道路部道路計画課長

4 次 第

（1）開会

（2）地域福祉部長あいさつ

（3）委員紹介

（4）正副会長選出

（5）諮問

（6）議事

1）仙台市ひとにやさしいまちづくり条例施行規則の改正について

（7）その他

（8）閉会

5 議 事 要 旨

(1) 開会

(2) 地域福祉部長あいさつ

(3) 委員紹介

- ・過半数の委員の出席により、定足数を満たしていることを報告。

(4) 正副会長選出

- ・今野広元委員が、石井敏委員を会長に、佐藤健委員を副会長に推薦。異議なく、石井敏委員が会長に、佐藤健委員が副会長に選出される。
- ・石井敏会長が挨拶。

(5) 諮問

- ・地域福祉部長から石井敏会長へ諮問。

(6) 議事（石井敏会長による進行）

- ・資料 2-1、2-2 により社会課長より説明。

< 質疑 >

○市場芳男委員

駐車場の整備基準の改正内容にある水平というのは具体的にどのような基準を求めているのか。
また、平らではない螺旋のような形の駐車場である場合は、水平という基準をどのように取り扱うのか。

○社会課長

この基準は、既に目標となる指針に含まれていた内容である。細かい数値の部分までは基準を設けていないが、一般的に平らであり、傾きがない状態を求めている。また、構造や地形の状況によって、条例に適合させるのが著しく難しい場合はこの限りではないと条例で定めている。

○安孫子雅浩委員

表面の仕上げの改正内容で、駐車場の整備基準では滑りにくい素材、敷地内の通路や歩道の整備基準では滑りにくい材料という言葉を使用しているが、表現が分かれているのは意味があるのか。

○社会課長

それぞれ基になっている施行令・省令における文面が違うため、表現が分かれている。同じような表現をしているが、同じ言葉を使用しておらず、整備基準を定めた当初に、当該整備基準をどのように定めたのかも追えていない。仕上げの表現が同じものを指しているのかも精査できていない。それぞれの項目同士を並べた時の表現については、今後調整していきたい。

○佐藤健副会長

複数の項目のエレベーターの籠の整備基準について、内のり幅と内のり奥行きが改正が盛り込まれているが、改正理由に数値の根拠に関する詳細な説明がない。床面積を計算すると、現整備基準を上回っていることは分かるが、内のり幅を1.4m以上、内のり奥行きを1.35m以上とした根拠を説明願いたい。

○社会課長

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令」で、エレベーターの構造に関する基準が定められており、内のり幅や内のり奥行きの整備基準については同施行令を根拠にしている。

(7) その他

<意見等>

○石井敏会長

皆様のそれぞれの立場や観点から、仙台市の福祉整備について、日頃感じていること、気になることを含め、一言いただきたい。

○安孫子雅浩委員

仙台市役所の議会棟から歩いて移動したが、天気も良く、気持ちよく会場まで辿り着くことができた。やはり、ストレスなく移動ができる、楽しい空間が街にあるというのは非常に大きな価値であると思った。法に基づいた条例の改正や、市の規則に準拠した形で、ひとにやさしい街の空間が確保されるように、皆様の知恵を集めて進めていきたい。

○市場芳男委員

宮城県建築士事務所協会の代表として出席させていただいた。個人的には、仙台地方裁判所の建築の専門委員も務めている。建築の立場で色々お話をする機会があるが、今回は福祉整備審議会でも色々と勉強させていただきたいと思っている。

○今野広元委員

P T Aと言うよりは、保護者の観点から見ると、子供たちの通学路の整備について、学校付近の細い道路の整備が遅れていると感じる。特に古い団地の中の子供たちが歩くところは、通学路は設けてはいるが、生活道路であり、頻繁に車が通るので、事故が起きかねないのではないかと感じている。地域と一緒にヒアリングしながら整備を進めていただきたい。

また、新型コロナウイルス感染症の影響なのか、自転車の利用者が多くなっている気がする。通勤で利用している方も結構いるようで、私は車で通勤しているが、車道の中まで入り、車と一緒に走っている、マナーを守れない自転車を見かける。この審議会からも、注意喚起を積極的に出していけたら良いと思う。

○齋木 しゅう子委員

車椅子用駐車場を利用した患者から、雨の日には屋根がなくて濡れてしまい困るという声があっ

た。やはり、屋根があって建物にすぐ入れると、どんな時も出掛けられてと良いのではないだろうか。駐車場の表面の素材や、平らであることなどの整備ももちろん大切ではあるが、車椅子の出し入れの時に介助者が濡れないようにするために、屋根が整備されていると便利であると思った。

仙台市に移ってきた時に、歩道が歩行者のための道ではなくて、車のための道ではないかと思った。アエルから花京院に向かう橋の下が新たに整備され、歩道は平坦だが、運搬車等が出入りする部分には急な傾斜があって、車椅子利用者は移動が厳しそうであるし、脚に装具を着けている方も上手く歩けずに怖い思いをしているのではないかと思う。車が入り出すには便利な歩道であると感じる部分があるので、広い歩道は、歩道と車道を平たんにして、車が入り出す部分には楔を打つという工夫をしてもらえると、もう少し歩きやすくなるのではないかと思う。

○石井敏会長

今、齋木委員からお話しがあった、車椅子利用者用駐車場の屋根について、ひとにやさしいまちづくり条例でご説明できる点があれば、事務局より説明を願いたい。

○社会課長

ひとにやさしいまちづくり条例の配慮事項では、車椅子利用者用駐車施設は、主要な出入口に通ずる通路については屋根やひさしを設けるとしている。整備費用や土地の状況にもよるので、義務にはしていない。

○平間弘委員

まず一つ目に、マンションの中には、部屋の番号を音声で伝えるとドアが開くという場所もあるが、聴覚障害者には声が出せない者もいて、耳が聞こえる方にとっては、声で認証し、ドアが開くというのは便利だと思うが、それができない者もいるということを知っていただきたいと思う。私の兄の引っ越し先がそのような場所で、スイッチを3回押したら反応するというような開け方を教えてもらい、ようやくドアを開けることができた。色々な場所で、音声認証により便利になっている部分もあると思うが、それを使えない者がいるというのもぜひ皆様にご承知いただきたい。

二つ目に、三陸自動車道で高速料金を支払う時に、身体障害者割引を利用しようとしたところ、係員が不在で利用しづらかったということがあった。このような場合のことも何か考えていただければと思う。人がいないと不便を感じる者がいるということも、ご承知いただきたい。

○阿部勇委員

今日、初めてこの会場に来たが、車は福祉プラザに停め、会場に入る際に、何処から入れば良いのかとウロウロした。車椅子の方はこちらです、などの案内があると良かったと思う。

ボランティアセンターの方から依頼を受け、福祉学習等でよく学校に行くことがある。3、4年生と会う機会が多い。先程、今野委員がお話したように、皆様は道路で怖い思いをしたことがないだろうか。歩道や、路側帯の違いなどをどう考えているだろうか。仙台駅東口などの、広く、歩車分離になっている歩道は良いが、学校などの古い歩道はかなり狭い。私は色々な場所に行ったが、車線があっても、電柱がある場所は線をはみ出さないと車椅子では行けないということもあり、やはり怖いと思う。子供たちも怖い思いをしているのだらうと思った。

また、齋木委員がお話ししていた歩車分離の歩道について、スロープの傾斜がきついと、やはり車

椅子が持っていられることがある。ある程度腕に力のある障害者は良いが、腕に力のない者では車椅子が持っていられることがあり、以前に福島の方では実際に亡くなった方もおり、それから、福島では傾斜は少なくなってきた。市でも今後整備する時は、配慮していただきたいと思う。

駐車場について、宮城県ゆずりあい駐車場が施行されているが、なかなか徹底されていないため、啓蒙していかなければならないと思う。

○久道悦子委員

歩道を利用して街に出る機会が多いので、これから整備が進むように、仙台市の高齢者や、老人クラブの方たちと話し合いの機会を設け、高齢者にやさしいまちづくりになるような意見をいただきながら、今後も審議会に参加し、私自身も勉強していきたいと思う。

○菅井明仁委員

国土交通省では、開催が来年となってしまったが、東京オリンピック・パラリンピックの開催予定地として、より一層のバリアフリー化・ユニバーサルデザインのまちづくりを進めているところである。今年5月に改正されたバリアフリー法においては、建築物や公共施設などのハード面のバリアフリー化に加え、いわゆる心のバリアフリーということで、ソフト面の強化もされたところである。ひとにやさしいまちづくり条例はハード面の整備に関する内容ではあるが、先程阿部委員からもお話しがあったように、ぜひ学校教育等と連携して、市民に対する教育啓発活動にも力を入れていただきたい。運輸局でも、バリアフリー教室への職員派遣や、高齢者疑似体験用の用具を貸し出ししているので、何かあれば気軽にご相談いただきたい。

それから、参考までに情報提供として、国ではバリアフリー法に基づいた整備目標などを盛り込んだ基本方針を定めているが、現行の目標は今年度末までとなっている。今は来年度からの新たな目標について検討が進められている。昨日、検討会が開催され、最終の取りまとめについて議論されたようである。近いうちに来年度からの新しい整備目標を盛り込んだ基本方針が公表されると思われる。この目標は、バリアフリー化の数値目標ということで、施設の整備基準とはまた別の話になるが、目標の達成状況については、毎年各県ごとの数値を出して評価することになっているので、目標達成に向けたご協力をお願いしたい。

○佐藤富美子委員

先日開催された地域子育て支援クラブ連絡協議会の研修会で、子育て中の母親がベビーカーを押して歩く歩道が整備されていないと、病院に通ったり、買い物に行くのが大変であるという話があった。

先程、阿部委員も話していたが、病院、スーパー、役所など、ゆずりあい駐車場のような、子供を連れお腹が大きい方が利用できる駐車場が少ないのではないかなと思う。福島市では、大学病院におもいやり駐車場が20台ほどあったり、車のルームミラーに貼る、おもいやり駐車場のステッカーを申請すると貰うことができたり、皆が住みやすい、生活しやすいまちづくりになっているので、仙台市もそのようになっていけたらと思う。

また、連絡協議会の会員が1,100名程度いるが、何でもない方が車椅子利用者用駐車場を堂々と利用し、買い物をしている場合、「車椅子を利用している方が大変なので」と一声掛ける啓蒙活動をしていましょうという話が出ている。

○佐藤健副会長

私は災害科学国際研究所に所属しており、防災を研究テーマにしているが、指導においては建築の学生を受け持っている。昨年度受け持った学生からは、福祉避難所や周産期福祉避難所をテーマに研究したいという申し出があり、私も一緒に勉強しながら指導している。

皆様から、現状と課題などの非常に貴重なお話を伺って、私自身たくさん勉強させていただいている。研究のための研究ではなく、少しでも研究成果を社会還元できるようにしていきたいと思っており、こちらの審議会で福祉のことについて、私自身も理解を深めていきたい。

○石井敏会長

新型コロナウイルス感染症で人の動きや生活が変わる中で、例えば、最近やはり目に付くのは、宅配のオートバイや自転車が目に見えて増えたことである。通常の自転車の動きやスピードとも少し違うし、今までになかった動きが道路の中に入り込んでいるというようにも見える。それに対する安全性というのは、物理的な整備ではないにしても、少し不安に思うような場面や状況を目にすることがあり、気になる点である。

福祉整備の中で、重点地区を整備しながらバリアフリー化を進めていると思うが、街の中心部も人の流れが数年前から随分変わったのではないかと思う。駅周辺でも随分人が動くようになり、駅の東側もかなりの施設も増えたので、東側の地域の整備もこれからは大事ではないかと思う。中心部や泉、長町の整備がどのような状況にあるのかということを以前にもお話ししたかと思うが、この審議会の場で、改めて現状を確認し、課題や情報、皆様からのご意見を共有しながら、そこからまた議論が繋がっていけば良いと思う。

○社会課長

事務局から今後のスケジュールについてお伝えする。本日、大きなご異議がなかったと受け止めているが、今後のスケジュール、進め方については会長と相談する。

また、ご欠席された委員の方から何かご異議があった場合などについては、進め方について改めて会長とも相談するが、特にご異議がない場合には審議会については開催せずに、事務局案のとおり整備基準の変更を行うということについて、答申の準備を進め、速やかに規則の改正の手続きを致したい。改正日は、令和3年4月1日に公布するというような形で進めていき、会長から答申をいただいてから、委員の皆様には写しを送付させていただく。

(8) 閉会

以上